

独立行政法人  
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine  
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット  
住所 東京都新宿区戸山1-21-1  
代表 TEL 03-3202-7181  
FAX 03-3207-1038  
地域医療連携室  
直通 TEL 03-3202-8066  
FAX 03-3202-1003



内 容

- ・新年のごあいさつ . . . . . 1
- ・先進医療 腹膜偽粘液腫に対する治療 . . . 2
- ・脳卒中ケアユニット（SCU）開設 . . . . 3  
旬の味覚
- ・連携登録医のご紹介 . . . . . 4  
看護通信

# 連携医療NEWS

## Vol.30 新年号

### 新年のごあいさつ

#### 国立国際医療研究センター病院

病 院 長

中 村 利 孝



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、この一年の皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

内外ともに落ち着かない情勢が続いています。長い停滞の時代から抜け出そうという努力がようやく始まりましたが、社会全体が活性化するには、今一步のところのようです。日本と世界にとって、本年が明るい年であることを心から願ってやみません。

当院では、昨年4月の医療事故のあと、医療安全体制の徹底的な見直しを行いました。薬剤の使用間違いを防ぐためのシステムを改善し、多職種によるチーム医療の徹底をはかり、相互チェックによって医療行為が安全に行える体制を整備いたしました。医療安全管理室の機能強化をはかり、医療安全についての講習、ヒヤリ・ハットニュースの充実、各職場単位での安全意識の向上活動などを通じ、職員一人一人の医療安全への認識を強化しました。接遇も含

めて、病院のサービス向上に向けて継続的な活動を開始しています。新しい年の始まりにあたり、職員一同、安心して安全な医療の提供に取り組んでいく決意を新たにしたいと思います。

昨年5月に新外来棟が完成しました。10月にはICU、HCUが移転改装され、12月には新たに脳卒中ケアユニット（SCU）が開設されました。これらを併せ重症病床数は全体で24床になりました。一床あたりのスペースを広げ、設備を一新し、重症例への対応について質・量とも、より一層強化しました。特殊感染症例等の受け入れは、これらの日常診療体制とは別に運営されています。

医療連携については、緩和ケア科の徳原医長が中心となり、蓑和田診療担当副院長、呼吸器科の杉山診療運営管理部門長が地域医療連携室の活動を行っております。さらに、本年1月には、内分泌代謝科医長に田辺先生、新生児科医長に五石先生、医療情報管理部門長には美代先生が着任されました。

また、4月より当センターは研究開発型法人に移行する予定です。疾患の予防や先進的な治療の開発を進めるとともに、総合病院としての診療機能もさらに充実させ、地域の皆様との連携をますます深めてまいりたいと思っております。本年も、何卒よろしく願い申し上げます。

# 先進医療 腹膜偽粘液腫 に対する治療について

外科診療科長

矢野 秀朗



## 腹膜偽粘液腫とは

腹膜偽粘液腫とは、腹腔内に起こる疾患で、年間100万人に1～2人の割合で発症する稀な病気です。多くの場合は、虫垂にできた腫瘍が作り出す多量の粘液により虫垂に穴が開き、腫瘍が腹腔内にバラバラに散らばってしまい、その結果、腹膜に癒着した腫瘍によりゼリー様物質が腹腔内に大量に貯留・増殖する状態をいいます。腫瘍の悪性度はさまざまで、顕微鏡で見ると良性とも悪性ともいえないものが多くあります。血行性やリンパ行性の転移を起こすことはありませんが、ゼリー様物質をそのままにしておくと腹腔内の臓器が圧迫されて腸閉塞を起こし食事がとれなくなり、低栄養になるため様々な合併症（とくに肺炎）を引き起こしたり、呼吸が上手にできなくなることがあります。

## 腹膜偽粘液腫に対する治療法

国立国際医療研究センターでは腹膜偽粘液腫に対して専門的な外科手術を中心に、他のさまざまな科や看護スタッフを含めた医療従事者と協力し、万全の体制で治療に全力を尽くしてきました。その中で、腹膜偽粘液腫の手術に加えて一緒に行う周術期腹腔内化学療法が効果的な治療法になることが分かってきました。

## 本治療の対象となる患者さん

- 1) 腹膜偽粘液腫と診断されている方
- 2) 肝臓や肺などに遠隔転移のない方
- 3) 手術に耐えられるだけの体力がある方
- 4) 年齢20歳以上80歳以下

## 先進医療

周術期腹腔内化学療法の効果をより科学的に確かめるために、当院において「腹膜偽粘液腫に対する減量切除術と周術期腹腔内化学療法に関する前向き試験」を実施する計画を立案し、先進医療Bの承認を取得し臨床研究を開始しました。

先進医療とは、健康保険で認められている通常の医療ではありませんが、今ある治療よりも効果があると期待される先進技術として、厚生労働大臣から承認された医療行為のことを言います。

この治療法は一定の有効性が示されていますが、まだ保険の適用が認められていないため、減量手術の部分においては保険診療となりますが、周術期腹腔内化学療法の部分においては先進医療分（保険外診療）となります。従って30万円を患者さんにご負担いただくこととなります。

また、先進医療ではその治療成績をはじめとした有効性、安全性に関する情報が臨床試験のデータとして収集されますが、そのデータは将来その先進医療を健康保険の適応対象とするかどうかについて厚労省が検討するときに利用されます。

## 先進医療を受診するには

この先進医療には、受けるための基準（適格基準、除外基準）があります。これらの基準の確認のため、受診を希望される方は**セカンドオピニオン外来**を予約して下さい。なお、紹介状、CTなどの画像データ、病理検査報告書、病理標本などをお持ち下さい。

セカンドオピニオン予約：地域医療連携室

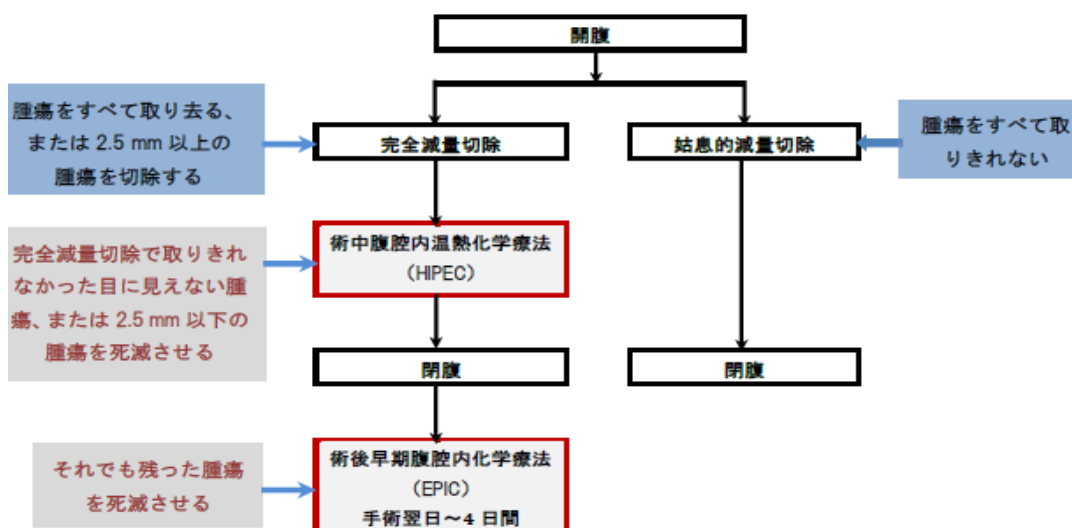
TEL 03-3202-7181（代表）内線：2048・2049  
03-3202-8066（直通）

FAX 03-3202-1003（直通）

担当医師：外科 矢野秀朗

<http://www.colorectal.info/>

## 腹膜偽粘液腫の治療の流れ



# 2014/12/1 脳卒中ケアユニット(SCU)を開設いたしました。

当院では2014年12月1日、長年の悲願であったSCU6床を中央棟4階に開設いたしました。SCUでは脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の患者さんに対して、脳卒中専門医をはじめとする脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科の各専門医や脳卒中専門看護師、リハビリ療法士など、多職種で構成する脳卒中専門チームによる集約的治療を行います。SCUで集中的に治療を行うことにより死亡率の低下、自宅退院率の増加、長期的なADLとQOLの改善が期待できることが知られています。当院は東京都脳卒中急性期医療機関として神経系の医師（脳神経外科医または神経内科医）が24時間365日病院内に常駐し、脳卒中急性期に随時対応しております。特に脳梗塞の患者さんに対しては、発症から4.5時間以内の症例に対する血栓溶解療法（tPA静脈内投与）や発症8時間以内の症例に対する血管内治療（血栓回収術）も積極的に行っております。またICUやHCU、神経系専門病棟との密な連携によりこれまで以上にシームレスな医療を提供できるものと自負しております。

さらにSCU内に発症早期からのリハビリテーションが可能となるように治療器具も整備し、患者さんの機能予後の改善に一層全力を尽くす所存です。



今回SCUを開設することにより、今まで以上に地域の救急医療、脳卒中診療に大きく貢献していきたいと考えております。突然発症の片側上下肢の麻痺、感覚障害など脳卒中が疑われ、迅速な検査や治療が必要とご判断されたときには、すぐにご連絡いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

副院長

(SCU病棟医長・脳神経外科医長) 原 徹男  
神経内科診療科長 竹内壮介  
リハビリテーション科診療科長 藤谷順子



## 旬の味覚 金目鯛

管理栄養士

金森 功次



金目鯛は「鯛」と名前がついていますが、鯛とは別種でキンメダイ科に属す魚です。見た目が立派なので鯛と同じように祝いの席で使われます。真っ赤な体と目が金色に輝くことから金目鯛の名がつけました。金目鯛の脂質には不飽和脂肪酸が豊富で、特にDHAが多く含まれており、血中の悪玉コレステロールや中性脂肪を減らし、循環器系の疾患を防ぐ効果が期待できます。調理法は新鮮なものであれば刺身にしても良いですし、煮付けや鍋物にしたり、味噌漬けや粕漬けにして焼いたりするのもおすすめです。頭やあらからも良いだしが出るので、捨てずに味噌汁や鍋物に入れて風味を味わって頂くのもよいでしょう。

～金目鯛のワイン蒸し～

材料（2人分）

- ・金目鯛 2切れ
- ・塩、こしょう 各少々
- ・玉葱 1/2個
- ・マッシュルーム 4個
- ・トマト 1個
- ・白ワイン 大きじ3杯
- ・バター 小さじ1杯

作り方

金目鯛に塩、こしょうをふる。

玉葱は細切りに、マッシュルームは薄切りに、トマトは8等分のくし切りにする。

鍋に玉葱とマッシュルームを広げ、金目鯛とトマトをのせ、白ワインをふる。

蓋をして、中火にかけ、魚に火が通って野菜がしんなりするまで10分程度蒸し煮にする。

最後にバターを入れ、バターが溶けたら完成。



# 連携登録医のご紹介

新宿イーストサイド  
たけうち内科

竹内 恵理保 先生



平成24年9月に新宿イーストサイドスクエアビル内で開業しました。新宿イーストサイドスクエアビルは、明治通りと職安通りの交差点角の日本テレビ跡地に建設された、特徴ある外観のビルです。副都心線・大江戸線の東新宿駅A3出口に直結しているため、雨に濡れることなく来院できます。

私は、今まで東大病院、三井記念病院、国立病院機構東京病院呼吸器外科等で、肺癌・炎症性肺疾患を中心に診療してきました。昨年、当院通院中の患者さんが、急性心筋梗塞2名、くも膜下出血1名を発症しました。外来は投薬中心の診療となりがちでしたが、臨床検査の重要性を改めて痛感・反省した年でした。そのためC@RNA COREを導入させていただきましたが、国立国際医療研究センター病院内で外来診療をしているのかと錯覚するほど、非常に利便性が高く、また徒歩圏内の国立国際医療研究センター病院で撮影できるので、画像診断を患者さんに提案しやすくなりました。さらに臨床検査技師を採用し、超音波診断を中心に検査部門を強化しました。これまでは諸検査は手薄になりがちでしたが、昨年の反省を踏まえ、今まで以上に、正確な診断を下せる環境が整いました。

しかし治療においては、クリニックでは制約が多く、また専門性が問われる場面が多くあります。国立国際医療研究センター病院は、当院から最も近く、最も信頼できる病院です。今後はこれまで以上に、医療連携を深めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

診療科	内科、呼吸器内科、循環器内科、腫瘍内科、感染症内科、外科、禁煙外来、各種検診、各種予防接種
住所	新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア地下1階
電話	03-6205-5315
FAX	03-6233-4343
診療時間	月～金 9:00～13:00、14:00～19:00 土 9:00～13:00
休診日	日曜日・祝日
交通	東京メトロ副都心線・都営地下鉄大江戸線 東新宿駅徒歩1分
ホームページ	<a href="http://www.takeuchi-naika.com">http://www.takeuchi-naika.com</a>



## 看護通信

### 11階東病棟（生活習慣病棟）

私たちは日々患者さんたちと頑張っています。



当病棟は、主に糖尿病内分泌代謝科・腎臓内科・循環器内科など自己管理が必要な患者さんが入院される病棟です。私たち看護師は、糖尿病看護認定看護師を中心として、「自立した自分らしい生活を送っていただくこと」を目標に、年齢や生活背景に合わせた様々な方法で患者指導を行っています。また、スタッフは勉強会、多職種間カンファレンスなどにより、常に最新の知識の習得に励んでいます。

生活習慣病のコントロールは患者さんひとりの頑張りでは難しいと考えます。「規則正しい生活・食事」を続ける患者さんのサポート役として、安心して入院生活を送っていただくために努力しております。

11階東病棟 看護スタッフ一同



外来診療時間 8:30～17:15

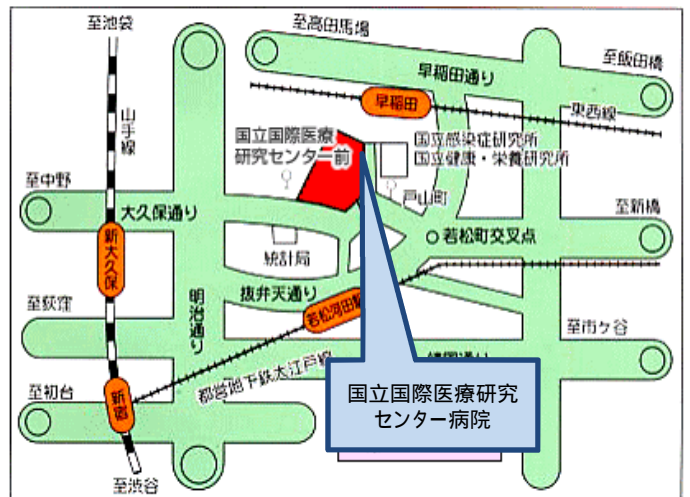
- ・初診受付 紹介状が無い場合 8:30～11:00
- 紹介状が有る場合 8:30～14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

- ・休診日 土・日・祝日・年末年始

### アクセス

- ・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- ・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- ・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- ・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



独立行政法人

国立国際医療研究センター病院

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1

TEL 03-3202-7181 FAX 03-3207-1038 ホームページ <http://www.ncgm.go.jp/>

